

会議の概要（議事録）

会議の名称	(番号) 1-38	令和2年度第2回 墨田区図書館運営協議会		
開催日時	令和3年3月13日（土） 午後2時から			
開催場所	墨田区立ひきふね図書館5階会議室			
出席者数	<p>【委員】9名 上田 修一（会長）、日向 良和（副会長）、藤山 光子、原 平充、森脇 直之、小島 光洋、牧野 雄二、小川 政美、大津山 浩美</p> <p>【事務局】5名 ひきふね図書館長、ひきふね図書館次長、ひきふね図書館主査、ひきふね図書館担当職員2名</p>			
会議の公開 （ 傍 聴 ）	公開(傍聴できる)	部分公開(部分傍聴できる)	傍聴者数	1人
議 事	<p>1 地域資料の扱いについて</p> <p>2 その他</p>			
配 付 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 資料1 墨田区立図書館における地域資料の扱い ・ 参考資料1 地域資料を活用した児童・生徒向けの取組 ・ 参考資料2 墨田区立図書館 利用者アンケート結果における傾向 			
会 議 概 要	<p>議事1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域資料の現状や展示 (p. 1) ・ 収集目的や範囲について (p. 2-3) ・ PR方法について (p. 4) ・ デジタル化について (p. 4-5) <p>議事2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者アンケート結果の傾向 (p. 6) ・ コロナ状況における図書館の方策など (p. 7) 			
所 管 課	ひきふね図書館（電話：5655-2350）			

議事第 1

地域資料の扱いについて

(議事に関連し、墨田区立ひきふね図書館の地域資料コーナー等の見学を実施)

上田会長 第 1 番目の議事に入る。事務局に説明をお願いしたい。

高村館長 資料 1「墨田区立図書館における地域資料の扱い」及び参考資料「地域資料を活用した児童・生徒向けの取組」について説明

上田会長 このことに関して何か質問や意見はあるか。

森脇委員 地域の展示は常設なのか、特別な展示なのか。

高村館長 特別な展示である。墨田区発祥のセツルメント活動を昨年からシリーズ化して、興望館の展示を 2 回、本所賀川記念館の展示を 1 回行っている。今後も郷土にちなんだテーマ設定をして、特別展示を続けていこうと考えている。

森脇委員 墨田に関係のある資料の展示はとてもいいと思った。

高村館長 今回の展示では、ひきふね図書館司書が施設へ出向き、資料をお借りして展示を行い、図書館の関連書籍も加えて展示している。

森脇委員 書架には墨田区に関連がある図書が多いが、どういう関連があるかという説明がもっとあるといいなと思った。

白木主事 墨田ゆかりの作家の書架には、書架の差し込みサインの部分に、その作家が墨田区とどのような関係があるのかを記しており、また一部の図書や DVD については、担当者が表紙の部分に説明書きを貼付している。それらのことを今後はもっと PR していきたい。

牧野委員 地域資料コーナー等の見学で視聴覚資料なども見かけたが、幅広い資料をきちんと揃えようとしていることを感じ、よいことだと思う。本日ひきふね図書館の地域資料を見せていただいたところだが、墨田区のお他館についてもどのような状況かを教えてほしい。

井東主事 各館には最低 1 連くらいの書架があって、地域資料の展示を行っている。

高村館長 緑図書館においては、郷土の地場産業の会社の方を呼んで講演会を行うなど、盛んに取り組んでいる。

三浦緑図書館長(傍聴人) 緑・立花・八広図書館では、隔月で墨田ゆかりに関する特集展示を行っている。緑図書館は、その 3 館の中では比較的、地域資料が多い方なので、近くの北斎美術館や、相撲の関連資料など、地域性を活かした展示や蔵書となっている。

牧野委員 墨田区の図書館では、緑図書館近くの江戸東京博物館や北斎美術館のカタログなどまで収集しているということを見た記憶があるが、こうした幅広い地域資料の収集はよいことである。

井東主事 関連機関から寄贈を受けた資料も保存している。

小島委員 私は興望館で仕事をしている関係で、興望館と本所賀川記念館の展示を行ったことの趣旨を薄々気づいてはいた。墨田区がセツルメント発祥であるということはとても大事なことだと思うので、個別に紹介するのではなく、日本の社会福祉

はセツルメントから出発したという側面もあるので、そういう形の企画展示があってもいいかなと思った。

高村館長 地域の展示を実施してみると、関連施設から「私のところも展示してほしい」という話が出てくる。セツルメント運動では、当時の震災復興だけではなく、庶民の生活を支える救済行動や、母子保健を先進的に取り組むという活動も行っている。

小島委員 私がいま調査していることだが、荻野吟子という日本で最初に国家試験を経て医師になった女医がいて、晩年の地が新小梅町である。なぜ荻野吟子は、医院を開業する最後の地をここにしたのか。彼女はセツルメントの元になっているキリスト教の信者だったので、その辺りの関係から紐解いていくというのは、地域の歴史に関わることだ。そのように墨田区がどのような歴史を歩んできたのかという形で、地域資料が使えるのではないかと思う。

高村館長 なかなかまだ整理が進んでいない状況だが、今後はテーマを決めて、地域資料を再編していくということを考えていきたい。

日向副会長 どの図書館も書庫を見ると未整理の資料があるが、それらの資料をきちんと読み込んで発見していける図書館員がいるのだろうか。資料を集めるのはいいが、何のために集めるのかという目的がはっきりしていないと、区にとってどのような役に立つのか、という話になる。地域資料を集めることはいいことだというのは、皆、何となくはわかっているが、できれば図書館で目的を設定できるといい。例えば、私が住んでいる都留市では、都留市に住み続けてほしいとか、何か新しい産業を起せないかなど、目標を決めている。セツルメントの話も、セツルメントを通じて墨田区が発祥であることを皆に知ってもらって墨田区へのリスペクトがほしいのか、それともセツルメントという活動をもっと忘れずに知ってほしいということなのか。そうしたところをはっきりさせていくと、今後、まだ集められていない資料を集める際に説明がしやすい。地域資料は寄贈で来るものだけではなく、本来であれば、こちらから集めていくものである。そのためには、保管場所とか整理する人材の確保が必要であり、とりあえず集めている、ということではそれらを確保することは厳しい。地域資料を何のために集めるのかという目的を、いま一度、見直す必要があるのではないか。

井東主事 かつては緑図書館が中心となって集めていた時代があったが、途中で郷土文化資料館という施設ができた。そこから資料収集の役割などが枝分かれした。以降、基本的に墨田区立図書館では、明治以降の文学を中心に集めるという形になっている。そうした行政組織の住み分けの中で、図書館としての方針を立てる必要がある。

高村館長 例えばセツルメントなどのテーマや、勝海舟など墨田の偉人で集めるなどがあるが、まだ方向性が決まっていない。その都度、気づいたときにこの展示をしよう、その次にはまた別のテーマだろう、というように、方向性が定まっていないというのが現状だ。計画的に展示していくというサイクルがあまりできていない。コ

ロナの時代なので、子どもたちに希望を与えるような資料を集めて、展示していきたいところがあって、セツルメント運動の紹介もその一つになるかな、という考えで展示した。今後とも、若い人に希望を持ってもらえる展示をしていきたい。

小島委員 ある目的で資料を集めはじめると、それが集まってくる、ということがある。墨田区のセツルメントは、地域医療が発展していった様々な歴史と関連がある。長野県の佐久地方を中心とした若月俊一先生の農村医学・地域医療などを合わせると、地域医療の発展の系譜というものがだんだん見えてくると思う。資料をどういう目的で集めていくかということは、どういうふうに分たちがその資料を読み解くか、どういうふう伝えていくか、ということである。墨田区の図書館でセツルメント資料を集めることによって、自分たちの施設や家庭に眠っている資料が、もっと出てくるかもしれない。

井東主事 そこで図書館が物自体をどこまで収集できるか、という問題がある。図書館が現物資料を募集すると、いろいろなものが来る。例えば、家にあった昔の写真をもらっても、その写真がどこまで本当なのか、書かれたメモがどこまで本当なのか。図書館ができる範囲での展示の仕方があるとは思っているが、学問的な正確性という視点から言うと、それらは公開にそぐわないという判断もある。図書館としては、ひとまず公開して情報をもらいたいと思うが、不正確なものを出してはいけない、という考え方もある。

上田会長 貴重書庫にある資料の目録はどうなっているのだろうか。OPAC（検索機）から検索はできる状況なのか。

白木主事 貴重書庫のほとんどの図書などは、通常の資料と同様、図書館システムに登録されており、OPACから検索可能である。ただ、貴重な図画など少数の資料については備品扱いであり、図書館システムには登録されていないので、検索の対象外となっている。

井東主事 現在、図画についても登録しようという試みをしているところである。

上田会長 そのときの目録は誰が作れるのか、という疑問があった。内部で行っているのか、外注しているのか。

井東主事 提供を受けたときの情報に基づいて、内部で作っている状況だ。そこで先ほど私が述べた問題が出てくる。

上田会長 独自の目録という問題があるということか。また保存の観点から言うと、キャビネットに入れておくだけでいいのかという問題もある。温度管理はされているようだが、もう少し検討した方がいいのではないか。地域資料を集める目的を定める、という問題は根底にはあると思う。どこの公共図書館も地域資料を集めることは基本業務の一つとして行っていると思うので、それはそれでいいのだが、今回見せてもらったものは、もっとPRしないと存在が薄れてくる。どのようなものがあるのかもわからない。そこで今回の半藤先生についての企画展示のようなものを計画的に行い、このような資料を持っているということを見せていくのがいいと思う。子どもたちを元気づけるためというのは、それはそれでいいが、地域資料の必

要性というのは、そこではない。

小川委員 墨田は歴史のある地域だが PR 不足というか、親自身がまだまだ子どもに伝えきれていないところがあると感じている。また、ひきふね図書館はとても綺麗なので、外から見たときにどこにあるのかわかりにくい、というのが正直ある。例えばアナログ的に、窓ガラスにこういうものを展示しているということをパネルで貼り出すとか、勝海舟や本所賀川記念館のことを窓ガラスからでもわかるよう PR してもいいのではないか。デジタル的にホームページを見たら出てくるということのも大事だが、それ以外にもアナログ的にも見せていってほしい。

高村館長 行ってみたいと思わせる工夫を考えたい。

小島委員 私は区内のすべての図書館・図書室を回ったが、外から見て、ここが図書館・図書室というのがわかりにくい。特に東駒形コミュニティ会館図書室と、横川コミュニティ会館図書室は、通りからはその存在がわからない。

高村館長 PR 不足である部分はあるので、PR に取り組んでいきたい。

森脇委員 貴重資料をそのまま公開して展示するのは難しいと思うが、レプリカのよなもの展示するのは難しいのだろうか。例えばデジタルアーカイブ化して、見ることができるようにするとか。

井東主事 十分考えられる。展示ボックスもあるので、見せられるものであれば、展示できると思う。

高村館長 デジタル化して、自宅から見られるのが一番とは思っている。今後、どのように進めていくのかを、考えていきたい。

上田会長 芥川龍之介の掛け軸を、デジタル化してウェブ公開した場合、どういう問題があるのだろうか。

井東主事 一つは、二次利用の問題である。勝手に使われてしまうのではないかとということだ。

上田会長 それは、どこでも問題になる話だと思うが。

井東主事 他区では、画像の4か所に認証マークが入っていて、勝手に使えないようにしていた。

上田会長 それは技術的な解決だ。他に何か問題があるのだろうか。

井東主事 あとはプライバシーの問題もあって、昔の写真の場合は、人物などが写っていることがある。

上田会長 確かに学校の記録写真などは公開できないとは思っているが、そうしたものの以外は、費用面などは別にすると、あまりデジタル化の障害はないように思う。

藤山委員 やはり本物を見るとわくわくする。ウェブで見て、「現物を見せてください」となった場合、見せてもらえるのだろうか。

日向副会長 山梨県立図書館は、デジタル化して公開している資料については、要望されたら基本的に図書館で見せている。先ほどの芥川龍之介の場合、著作権が失効しているので、むしろ二次利用させたほうが PR につながる。気になるのはむしろ、きちんと解説を書ける図書館員がいるのか、ということだ。また検索で引っかかる

ための工夫をできる人がいるのだろうか。例えば、IIIF（トリプルアイエフ。International Image Interoperability Framework の略）のマニフェストを書けるのか。その辺りが心配である。

井東主事 まさにそのとおりで、以前展示したときも、解説やコメントについて、クレームを受けたことがあった。正しい解説を書けるかということは、とても重要な問題だ。

日向副会長 デジタル化については、最初は一枚ものの資料を PR 的に作って、その後、研究をしながら、どのようなデジタル化の方向性がいいかなど定めていく必要がある。デジタル化したデータをどこに置くのか、ずっと置けるのか、いくら費用がかかるのかなど、現実的な問題が出てくる。一回デジタル化して、5年くらい経ったら終わり、ということも多く、以前実施していたウェブのページが途中で無くなってしまいう図書館もあり、それでは駄目である。何年も、何十年も使うとなると、きちんと計画しなければならない。人材も育てなければいけない。まずはそうしたところの研究をはじめるところからだと思う。今はまだ方向性が固まっていないのであれば、まずはそういった点の洗い出しが必要だ。その上で、やるとなったら、やめられることではない。ずっとやっていかなければいけない。やっていくと負担にもなってくる。スキャナで少しデータだけ作っておしまい、というレベルの仕事ではない。図書館員が全部できるわけではないので、例えば解説は外部と連携して書いてもらうなど、そこも含めての検討が必要だ。個人的には、デジタル化して見ることができた方が、墨田区を知るきっかけにもなると思う。できるだけ安く、自由に使えて、継続的にできるような方法を考えてもらいたい。こんな資料があるという紹介だったら、写真を撮って、コメントを書いて、タイトルを載せるくらいならいいかもしれないが、地域資料のデジタル化と言う場合には、きちんと探せるためのデータも作れないといけない。展示をやるにして実は同様で、こういう内容だからこう PR すると面白いということは、資料を読み込んでいかないとわからない。そういう人材を地道に育てていくか、もしくは外部と連携するなどが必要だ。デジタル化自体は、本格的な機材も必要になるので、外部に委託するなどが考えられる。未整理の資料があるならまず整理して、その後、外から見つかるようにしていく。例えば芥川龍之介なら、私の大学の国文学研究をやっている人たちが、もしかしたら見たいということもある。手紙などは、送った相手との連携もできると思う。

高村館長 デジタル化はとても大きな話で、本当に計画的に、まずは職員の勉強からはじめないといけない。またデジタル化しても、本物を見たいという要望もあれば、それにも応えていかなければならない。

日向副会長 見せる場所や、やり方を考えてもらえるといい。

森脇委員 デジタルアーカイブ化する際は、費用がかかると思うが、図書館としてはクラウドファンディングのようなことはできるのか。例えばそれをやって、お金を払った人は本物が見られるなどがあると、お金が集まるのではないか。

高村館長 これからはクラウドファンディングのような形で展開していくのも一つ

の手かもしれない。

議事第2

その他

上田会長 その他として何かあればお願いしたい。

長山次長 参考資料「墨田区立図書館 利用者アンケート結果における傾向」について説明

牧野委員 前回した質問に対する回答に感謝する。クロス集計をして傾向が一層細かく見えたと思う。今後、運営、サービスの計画等をするときのヒントがあるかなと思う。配布された参考資料から読み取ると、例えば比較的忙しい人が多いと思われる世代が芸術などに興味があるということであれば、彼らが参加しやすい夜の時間などに、そうしたイベントをやることなどは考えられるだろう。また、これも一つの例であるが、前回の話にあった電子図書館についていえば、いつでもどこでも利用できるのが電子図書館のよいところであるので、もし実施するなら忙しい世代の人向けのコンテンツにフォーカスしてみるとか、ヒントがあるかもしれない。利用頻度で言えば、あまり利用していない人たちのニーズがあるようなイベントを行うと、利用者が拡大するかもしれない。なお、今回は利用者対象のアンケートだったが、理想を言えば、今後運営方針を考えるときなどには、図書館を利用していない人も対象に含む調査を行えるといいのかなと思う。

小島委員 「主な利用目的」と「興味ある分野」というのは、いくつの選択肢だったのか、また複数回答可にしていたのか。

長山次長 複数回答可である。

高村館長 目的は8つ、分野は20である。

上田会長 図書館側から見て、意外だったというところはあるか。

井東主事 以前から図書館の貸出の半分近くは文学だった。当時はビジネス支援の話が盛んだったので、社会科学や自然科学を充実させようとしてきたが、これを見るとやはり文学なのか、という気はする。

高村館長 50代、60代は歴史が好きかなという気はしたが、「地理・旅行」というのは、少し意外だった。「年に数回」利用の人が、「芸術・音楽・映画」に興味があるというのは、ピンポイントに本を求めてくる方々なのだろうか。

日向副会長 館内で映画を見る設備はあるのか。

井東主事 専門的な設備はない。

上田会長 催しものでは行っていないのか。

高村館長 ひきふね図書館パートナーズの活動では実施した。

原委員 今はコロナでイベントができなくなっている状況で、このアンケートを取ったときとは利用者の行動が変わってきていると思う。それなので何らかの対応をしないと、図書館が使われなくなる、という状況が生じると思う。このアンケートを参考にしつつ、世の中の情勢を見ながら、催しもの変わりにこれをしようという

ような検討や工夫をされているのか、教えてもらいたい。

高村館長 催しものがなかなかできない中で、子ども向けの読み聞かせ動画を区公式ページにアップしたり、障害者サービスでは ZOOM での読み聞かせを行っている。

また、子ども向けのパスファインダーなども作っている状況だ。

大津山委員 コロナの状況なので、家から図書館ホームページを見て、本を選ぶことが多い。本の内容やページ数などの詳細情報は出ているが、本当は表紙が載っていた方が、雰囲気かわかると思う。表紙を写真で掲載してもらうのは難しいのか。

井東主事 ひきふね図書館開館当時は可能な限り表示していたが、検索結果を見る際に、下まで多くスクロールしないといけない、時間がかかるという意見があったため一時休止した。その後「アイコン表示」と「一覧表示」という形で選択できるようなシステムにしたため、現在はログインして検索すれば、一部の本の表紙は見られるようになっている。

高村館長 絵本の場合、出版社に著作権の許諾確認を行うと、ホームページは無理だが印刷物では使えるなどの条件がある。そのため、ブックリストを作るときには、許諾を取ったものに限り、本の表紙を掲載している。

上田会長 この利用者アンケートは毎年行っているのか。

高村館長 毎年実施している。

上田会長 昨年12月にも実施しているということか。その結果はもう出ているのか。

高村館長 NPS という満足度の指標を使っているが、満足度はやや上がっている。

上田会長 ということは、コロナ禍での図書館の取組というのが、それなりに評価されているということになるのだろうか。

高村館長 そのように理解している。詳細は今、集計しているところで、次回の協議会で報告できると思う。コロナで来館者は減ったが、貸出はむしろ増えている。

原委員 それは多分、家にいるようになって本を読むようになったという仮説が成り立つものと思う。図書館に来てブラウジングして選ぶというよりも、ホームページからピンポイントに選ぶような状況は人気本に集中しがちだが、本当はたくさんの本があって、そこから選べるという工夫があるといい。

高村館長 ウェブ上のブラウジングのようなものか。

原委員 そうである。図書館ホームページではランキングのように、特定の本に人気が集まるような紹介をすると予約が殺到するので、いろんな紹介の仕方によって、読みたくなる本が集中しないようにすると、皆が満足する形で使えるのかなと思う。新刊本ではなくて、今日見たような、墨田にゆかりのある人の本を紹介するとか、いろいろな人の興味を引くような紹介の仕方があるといいかなと思う。

小島委員 利用者アンケート結果の「興味ある分野」で「こども向けの本」が、「12歳以下」、「30歳代」、「40歳代」で挙がっている。このアンケートに答えるときに、母親が小学生の子どもを2人連れてきたときは、誰が回答したかなど、どのような回答の仕方になったのか。

高村館長 来館したときの同伴者については、問いを作っていないので、そこま

ではわからない。

小島委員 そうすると、母親が代表して答える場合もあるし、小学生だから子どもが答える場合もあったということか。

高村館長 そうである。

小島委員 子育て世代に特化した、少し別のアンケートも必要かなと思った。また、利用者アンケートを続けると、一度行って嫌だった人はそもそも来なくなるので、リピーターの集団が答えるようになる。そうすると満足度は上がっていくことになる。そうしたバイアスに気をつけないといけない。利用者アンケートの要望に特化して、図書館の性格を整備していくと、ある特定のリピーターの目的に沿ったものが構築されてしまうので、注意が必要だ。

上田会長 本日も皆様の活発な議論に感謝する。他になければ以上で、令和2年度第2回墨田区図書館運営協議会を閉会する。